

総括

1. 病院の特色

貴院は療養型病院として開院以来、地域医療に貢献してきたが、その後、回復期リハビリテーション病棟を開設し、リハビリテーション医療を中心とした病院への方向性を定めている。また、さらなる質の向上のために、病院機能評価を継続的に受審しており、職員一丸となって取り組んできた姿勢も確認できた。十分な疾患別リハビリテーションの提供に加えて、多職種協働で患者のリハビリテーション・ケアに取り組んでおり、成果を上げている。入院時訪問指導や地域の特性に応じた在宅復帰のための取り組みは、高く評価できる。今後は、客観的な評価の充実や ICF の視点の具現化、データの業務改善への活用などを通じて、地域にさらに信頼される病院への進化することを期待したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念は明確に示され、病院の内外に周知されている。365 日充実したリハビリテーションを提供するための療法士数が十分に確保されており、患者一人あたり 1 日 8 単位以上が実施されている。医師 4 名のうち 3 名が、リハビリテーション科専門医である。回復期リハビリテーション病棟運営に関する状況や課題は運営委員会で議論され、決定事項の周知も適切である。安全管理に関しては、医療安全管理委員会を中心に組織的に取り組んでおり「転ばん隊」を設置するなど、回復期リハビリテーション病棟における具体的な活動が適切に行われている。病棟内に訓練スペースやデイルームも備えており、多職種で進捗を共有しながら、安全・快適にリハビリテーション・ケアを供給できる療養環境である。教育委員会が中心となり、全職種共通の「クリニカルラダー」に基づく研修が、体系的・計画的に実施されている。地域の基幹病院を中心とした紹介患者の受け入れは、多職種でタイムリーに検討されており、地域連携パスも活用されている。在宅復帰に向けて、入院時訪問指導を 6 割の患者に実施し、生活環境を踏まえたリハビリテーション・ケア計画を立案している点は評価できる。退院後訪問指導の件数も徐々に増加しているので、今後は得られた情報を病棟の業務改善に活用されることを期待したい。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医 3 名を含む 4 名の医師が、受け持ち患者数が多い中、相補的に回復期リハビリテーション病棟と療養病棟の診療にあたっている。看護師と介護福祉士の業務マニュアルが整備されており、退院後の生活を踏まえたケアを実施している。リハビリテーション時間以外の患者活動を高める取り組みも適切である。各療法士は、評価に基づいてリハビリテーション計画を立案し実施している。評価の仕方は療法士により差があるため、統一された方法で行うとともに、具体的なプログラムが診療録に記載され、多職種で共有できることが望ましい。経験年数の短い療法士に対する教育・研修のさらなる充実にも期待したい。社会福祉士は病院に 7 名配置され、リハビリテーション・ケアの進捗を踏まえた患者・家族への支援を適切に行っている。管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士は、それぞれの担当病棟でチームメンバーとして専門性を適切に発揮している。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日に各職種が評価を行い、入院時カンファレンスでそれらの内容が共有されている。入院時診療計画書やリハビリテーション実施計画書についても、それらの評価を反映させた個別性のある内容が望まれる。患者の 1 日のリハビリテーションや活動のスケジュールは、多職種が把握できる仕組みがあり、それらの進捗状況も日々のミーティングやカンファレンス、カンファレンスシートで共有されている。入院時から退院支援計画を立案し、入院時訪問指導を看護師や療法士により入院患者の約 6 割に実施することで、在宅復帰に必要な個別の課題を抽出する取り組みや、砂利道での基本動作や農作業の評価、ドライブシミュレーターの導入など、地域の生活様式を考慮した在宅復帰への取り組みは高く評価できる。

評価判定結果

1	良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営	
1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	B
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	A
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	A
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	A
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	A
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	A
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	B
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	A
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	A
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	A
1.4.2	在宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス機関等と円滑に連携している	A
1.4.3	在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	A

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	A
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	A
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	B
2.3.2.P	理学療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.3.3.P	理学療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.P	理学療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	B
2.3.2.0	作業療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.3.3.0	作業療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.0	作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.S	言語聴覚士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.3.3.S	言語聴覚士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.S	言語聴覚士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	B
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	A
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A

2.5	回復期リハビリテーション病棟における関連職種の専門性の発揮	
2.5.1	関連職種は役割・専門性を発揮している	A
2.5.2	関連職種は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.5.3	関連職種はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.5.4	関連職種は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
3	チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践	
3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	B
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	B
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	A
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	A
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	B
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	B
3.4	在宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	在宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	S
3.4.2	在宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	A